

途上国におけるコベネフィット効果検証・実証事業

565百万円（515百万円）

水・大気環境局 水・大気環境国際協力推進室

1. 事業の必要性・概要

気候変動枠組条約に係る国際交渉においては、温室効果ガス排出削減に係る中長期的な枠組について議論が継続されている。我が国は、京都議定書第二約束期間に参加しない一方、温室効果ガスの排出削減目標に引き続きコミットしており、将来枠組みへの議論を主導的に進めていくことが期待されている。

また、途上国においては依然として環境汚染が深刻な課題となっており、温室効果ガス削減において地域環境改善のコベネフィット効果を有する対策の優先度が高い。さらに、国際交渉において合意された途上国による温室効果ガス排出削減行動（NAMA）を含む新たな市場メカニズムの検討が進められているが、途上国はそれらのノウハウや適切な環境技術・測定技術の不足という課題があり、国際社会による支援が求められている。

本事業では、我が国の温室効果ガス削減目標の達成と途上国における環境汚染対策を進めるため、政府間の合意に基づく二国間協力の枠組も活用し、CDM を利用したコベネフィット支援事業の実施及び新たな市場メカニズムを念頭においたコベネフィット効果を有する事業実施に向けた協力等を実施する。

2. 事業計画（業務内容）

調査項目	H23	H24	H25	H26
(1) 第二約束期間における CDM を利用したコベネフィット支援事業				
(2) コベネフィット型削減対策検証・実証事業				
(ア) コベネフィット型事業実現可能性調査の実施				
(イ) コベネフィット技術の実証試験の実施				
(ウ) プロジェクトの測定・報告・検証（MRV）定型化の検討				

(1) 第二約束期間における CDM を利用したコベネフィット支援事業

CDM を利用したコベネフィット型事業に対し、一定のクレジット移転を条

件に補助を行う。

(2) コベネフィット型削減対策検証・実証事業

(ア) コベネフィット型事業実現可能性調査の実施

アジア諸国との間で二国間の覚書等に基づき実施している協力を踏まえ、事業実現可能性調査等を行う。

(イ) コベネフィット技術の実証試験の実施

コベネフィット効果を伴う技術の実証施設を用いた調査を行う。

(ウ) プロジェクトの測定・報告・検証 (MRV) の定型化の検討

コベネフィット効果を有する NAMA に関する MRV の定型化検討を行う。

3. 施策の効果

- 我が国の温室効果ガス削減目標の達成と安定的なクレジットの取得
- 途上国に対する環境汚染対策及び我が国の環境技術の普及
- 途上国における NAMA 制定の推進

途上国におけるコベネフィット効果検証・実証事業

CDMを利用したコベネフィット支援事業

製糖工場における排水からのメタン回収エネルギー代替事業【スリランカ国】

事業費 8億円(国費4億円)

削減量 約39万t-CO₂

本事業は、製糖工場から排出される廃液に含まれる多量の有機物の発酵を促進させるSMATシステムを導入する事により、バイオガスを発生させ、回収することで、所内電力の供給に用いるもの。排水の水質(COD)改善を図るとともに、温室効果ガス(メタン)の大気放出を抑制し、発電した電力を工場内で使うことにより化石燃料使用量の削減を同時に実現する。

温暖化対策

温室効果ガス(メタン)の大気放出の抑制
回収したメタンガスによる発電

環境汚染対策

排水の水質改善

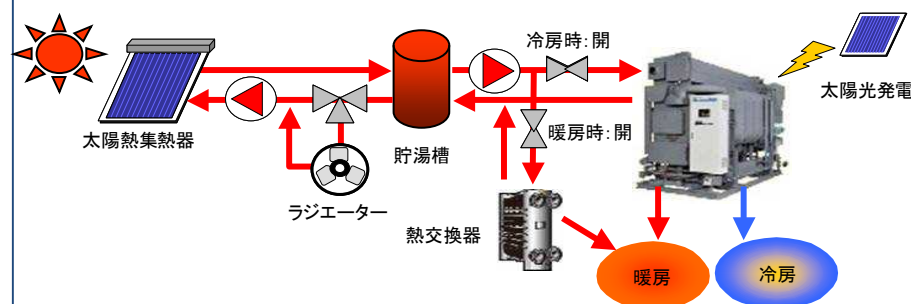
コベネフィット型削減対策検証・実証事業

(目的)

- 途上国による温室効果ガスの削減対策(NAMA)の策定支援
- 我が国の環境技術を活用したコベネフィット型対策の普及

<コベネフィット技術の例>

ソーラー吸収冷温水機を設置することにより温室効果ガス(CO₂)の発生を抑制するとともにSO_x、NO_xの排出も削減する。



(実施内容)

- ① 現地での環境条件下において適用可能なコベネフィット技術の実証を行うための実験施設の整備
- ② 温室効果ガス削減量・環境改善効果等のコベネフィット効果把握のための測定機器整備及びその測定と検証
- ③ NAMAの透明性を確保するため、測定・検証・報告(MRV)の普遍化・定型化の検討